

広島県における水生・湿生植物の現状

下田 路子*・吉野 由紀夫*・関 太郎**

Michiko Shimoda, Yukio Yoshino and Tarow Seki: Aquatic and wetland plants in Hiroshima Prefecture, especially rare and endangered species

はじめに

広島県の水生・湿生植物とその生育環境の現状、および絶滅のおそれがあるとされている種とその分布について紹介したい。また、「広島県版レッドデータブック(仮称)」が平成7年度内に刊行される予定なので、これにとりあげられる種についてもふれたい。

広島県の湿地

1. 広島県の湿地の種類

広島県で見られる、水生・湿生植物の主な生育地には以下のものがある。

- 湿原・湧水湿地：ヌマガヤ、イヌノハナヒゲ類、ミズゴケ類、モウセンゴケ、サギソウなどが生育する湿原は、山間部の谷や傾斜の緩やかな斜面に発達する。沿岸部でも、湧水にうろおされている斜面に、イヌノハナヒゲ類が生育する湿地が見られる。また、スゲ類が繁茂する湿原もある。
- 沼沢地：スゲ類、ヨシ、マコモ、ガマ類などの大型の抽水植物が繁茂する沼沢地は、ため池や河川の岸、放棄水田などで見られる。
- 河畔：川床や河原に、様々な植物群落が発達する。
- 湿地林：河川、貯水池、ため池の岸、湿原の周辺部、古い放棄水田などに、ヤナギ類やハンノキなどが生育する湿地林が見られる。
- 塩性湿地：海岸、塩田、塩田跡、河口の汽水域に塩生植物が生育していたが、現在は非常に少なくなった。
- ため池：水中や水辺で、様々な水生・湿生の植物を見ることができる。
- 放棄水田：県内の至るところで見られ、長年放置されている放棄水田は、湿原、沼沢地、湿地林などに変わっている。

2. 広島県の湿地の現状

現在、湿地に最も大きな影響を与えているのは土地開発である。山間部では、大規模な農場や牧場の開発、飛行場やゴルフ場をはじめとするレジャー施設の建設などにより、また都市に近い地域では、住宅団地や工業団地などの造成により、湿地が姿を消している。海岸や河口でも、埋め立てや護岸工事のため、広島県の特徴的な植生の一つであった塩生群落は、十分な調査が行われていないうちに大変少なくなった。河川や池の護岸工事、改修工事、ダムの建設などの土木工事による植生の変化や消滅も見られる。また湿地に流入する水が汚れたため、植生が変化する場合もある(Shimoda, 1993; 下田, 1995; 下田・橋本, 1993など)。

一方では、人間の影響が無くなったため、様々な湿地植生が発達する場合も見られる。古い放棄水田が、ヨシやガマの群落、スゲ湿原、ヌマガヤ湿原、ハンノキ林などに変わっているのが見られるし、灌がいにも利用しなくなって水をぬいたまま放置されているため池には、水草群落に代わって、沼沢地や湿原の植生が発達している。

絶滅の恐れのある種

1. 我が国で絶滅の恐れがある植物種

広島県で生育が確認されている水生・湿生植物のうち、「我が国における保護上重要な植物種の現状」(我が国における保護上重要な植物種及び群落に関する研究委員会種分科会, 1989)で絶滅危惧種とされているものは、表1に示した33種である。淡水中に生育する水草が14種と最も多く、ため池がこれらの種の生育地として貴重な存在であることがわかる。

表1にあげた種の中には、広島県内での分布がよく把握されているものから、いまだ調査が不十分なため、県内での分布がよくわからない種まである。

*東和科学株式会社 生物研究室; **広島大学理学部

表1 広島県に生育する「我が国における保護上重要な植物種の現状」* にあげられた水生・湿生植物

評価	種名
絶滅寸前	ヒメコヌカグサ, オグラセンノウ, ヤチシャジン
危険	ミズニラ, シナミズニラ, デンジソウ, ミクリ, ヤマトミクリ, ナガエミクリ, ヒメミクリ, カワツルモ, イトクズモ, シバナ, マルバオモダカ, スブタ, ヤマトホシクサ, サギソウ, サクラバハノキ, ヒロハマツナ, オニバス, オグラコウホネ, ヒメコウホネ, イシモチソウ, タコノアシ, アゼオトギリ, オグラノフサモ, サクラソウ, イヌセンブリ, ガガブタ, チョウジソウ, ミゾコウジュ, ゴマクサ, ミコシギク

*我が国における保護上重要な植物種及び群落に関する研究委員会種分科会 (1989)

表2 「広島県野生生物の種の保護に関する条例」に基づき保護対象にする指定野生生物種

指定野生生物種

- 動物：ツキノワグマ, アビ類, ダルマガエル, スイゲンゼニタナゴ, カワシンジュガイ, ヒメシロチョウ
- 植物：ミズニラ* (シナミズニラ* を含む), オグラセンノウ**, ツルマンリョウ, ヤチシャジン**

特定野生生物種

- ミヤジマトンボ

*水生植物, **湿生植物

サギソウとオグラセンノウ(図1)は、美しい花を咲かせてよく目だったため、分布に関する報告が多い。この2種は、県内での分布がよくわかっている種といえるが、分布パターンは互いに大変異なっている。

サギソウは、県内に広く分布する種の代表である。各地で多数の生育地が確認されているが、湿地が少ない県北東部と西部には空白がある。著者らは、文献により46地点、著者らの現地調査資料により30地点、計76地点で生育を確認している。

一方、オグラセンノウ(図1)は、生育が稀な種の代表である。オグラセンノウは、県東部と北西部で、これまでに合計7ヶ所の生育地が報告されている。この中には、1933年の報告だけの地点もあれば(高木, 1933)、複数の文献に繰り返し報告されている地点もある。

また、ミクリ類のように、少数の生育地が確認されているものの、広島県全体での分布は、まだよくわからない種もある。水生・湿生植物に関する調査報告が少ない理由の一つに、湿地の詳しい調査が行われている地域が非常に限られていることがある。また、目立たない種が多いため、興味を持つ人が少なかったとも考えられる。

2. 広島県の絶滅のおそれのある種

広島県では、「広島県版レッドデータブック(仮称)」の刊行が、平成7年度内に予定されている。平成3年から「緊急に保護を要する野生生物の種の選定調査事業」が実施され(関, 1995)、平成6年に第一次選定種が発表された。植物では56種が選ばれ(広島県, 1995a)、この中の水生・湿生の種は16種であった。

また、第一次選定種の中から、「広島県野生生物の種の保護に関する条例」に基づき保護対象にする指定野生生物種として11種が選ばれた(表2)。特定野生生物種は、学術、繁殖目的以外は原則的に捕獲禁止となり、その他の種は、県に届け出後、県が認めた場合だけ捕獲、採取できる。植物の指定種は、ミズニラ(シナミズニラを含む)、オグラセンノウ(図1)、ツルマンリョウ、ヤチシャジン(図2)で、ツルマンリョウ以外は、水生と湿生の植物である。

上記の一次選定種に二次選定種を加えて、「広島県版レッドデータブック(仮称)」に掲載する動植物の最終的なリストが、平成7年に公表された(広島県, 1995b)。植物は178種が選ばれ、このうちの水生・湿生植物は、表3に示した39種である。

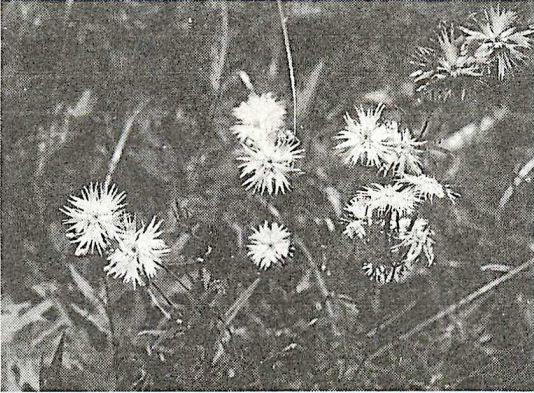


図1 オグラセンノウ。赤い花は、湿原でよく目だつ。



図2 ヤチシャジン。県東部の湿原に生育し、薄紫色の花を咲かせる。

表3 広島県に生育する貴重な水生・湿生植物の評価

種名	広島県の評価*	環境庁の評価**
ミズニラ	絶滅危惧種	危急種
シナミズニラ	絶滅危惧種	危急種
デンジソウ	絶滅危惧種	危急種
カワツルモ	絶滅危惧種	危急種
イトクズモ	絶滅危惧種	危急種
ヒロハマツナ	絶滅危惧種	危急種
オグラセンノウ	絶滅危惧種	絶滅危惧種
オニバス	絶滅危惧種	危急種
タコノアシ	絶滅危惧種	危急種
ミツガシワ	絶滅危惧種	
ガガブタ	絶滅危惧種	危急種
チョウジソウ	絶滅危惧種	危急種
コタヌキモ	絶滅危惧種	
ヤチシャジン	絶滅危惧種	絶滅危惧種
ミコシギク	絶滅危惧種	危急種
ミズワラビ	危急種	
サンショウモ	危急種	
シバナ	危急種	危急種
ヤマトホシクサ	危急種	危急種
イワショウブ	危急種	
サギソウ	危急種	危急種
オグラコウホネ	危急種	危急種
ヒナノカンザシ	危急種	
クリソウ	危急種	
サクラソウ	危急種	危急種
ゴマクサ	危急種	危急種
ミカワシオガマ	危急種	
ヤマトミクリ	希少種	危急種
リュウノヒゲモ	希少種	
スブタ	希少種	危急種
ヒメザゼンソウ	希少種	
カキツバタ	希少種	
サクラバハンノキ	希少種	危急種
サイジョウコウホネ	希少種	
ヒメコウホネ	希少種	危急種
バイカモ	希少種	
イシモチソウ	希少種	危急種
アゼオトギリ	希少種	危急種
ミゾコウジュ	希少種	危急種

*広島県(1995b)

**我が国における保護上重要な植物種及び群落に関する研究委員会種分科会(1989)

おわりに

広島県では、県版のレッドデータブックがまもなくできあがる予定であるが、県内の水生・湿生植物についての調査・研究はいまだに十分とはいえない。水生・湿生植物の保護・保全対策のためにも、各種の分布、生態、生育環境についての、さらに詳しい調査が必要である。

また、植物標本を収蔵する公的な施設がないことは、水生・湿生植物に限らず、広島県の植物相全般の研究における深刻な問題である。貴重な標本の散逸を防ぐためにも、標本庫を完備した研究施設が早急に必要である。

引用文献

- 広島県(監修). 1995a. 広島県の自然と野生生物. 168 pp. 中国新聞社.
 広島県. 1995b. 広島県緊急に保護を要する野生生物の種の選定調査結果の概要.
 関 太郎. 1995. 広島県における野生生物の保護. 広大

環境 24: 9-13.

- Shimoda, M. 1993. Effect of urbanization on pond vegetation in the Saijo Basin, Hiroshima Prefecture, Japan. *Hikobia* 11: 305-312.
 下田路子. 1995. 広島県西条盆地のため池における水草と環境の変化. *群落研究* 11: 23-40.
 下田路子・橋本卓三. 1993. ミズニラ池(仮称)の植生と水質の変化. *植物地理・分類研究* 41: 103-106.
 高木哲雄. 1933. 広島県に於ける高等植物の分布に就て(予報). *崇徳* 15: 1-11.
 我が国における保護上重要な植物種及び群落に関する研究委員会種分科会(編). 1989. 我が国における保護上重要な植物種の現状. 320 pp. 日本自然保護協会・世界自然保護基金日本委員会, 東京.

山口県平生町で

葉状体の裏面緑色のウキクサ群落
南 敦

1995年8月23日, 山口県平生町平生村, 平生町立平生図書館の西となりの小川〔5万分の1地形図: 柳井一左上〕で葉状体の裏が緑色のウキクサ群落が見つかった。この小川の幅は約10m, 川底の両側にはアシやガマが多く繁り, コウキクサが多数浮いていたので, ついでにウキクサをとってみると葉状体の裏は緑色であった。陽の強く当たる所, 少し日陰の所などから約200個体以上採集したがほとんど緑色で, ごくわずか, 数個, 根のつけ根当たりがうす紫のものがあつた。季節の影響のことも考えて勤務校の柳井市古開作, 柳井高校側の水路や学校や自宅の水槽のウキクサを見たが, いずれのウキクサの葉状体の裏も紅紫色であった。ところで角野康郎『日本水草図鑑』(1994)では「葉状体の裏面は多かれ少なかれ赤紫色であるのがふつうだが, 場所や時期によっては緑色の場合もある」と記してある。

平生町で採集した葉状体の裏緑色のウキクサは自宅で栽培している。また, 証拠標本は山口県立山口博物館に納入の予定である。

山口県瀬戸内海の屋代島に

ミジンコウキクサ他
南 敦

ミジンコウキクサは山口県では周南部の岩国から防府まで採集されている。特に東部の岩国から柳井の間では非常に多産している。ハス田が多いことも一因のようである。今回見つかったのは屋代島で, 橘町油田から東和町船越に通じる道路端の東側, 約80m×約80mの池。ヒシが8割, 水中にマツモ, イトモ, エビモ, ホザキノフサモが多かった。水面にミジンコウキクサ, アカウキクサ, コウキクサ, アオウキクサなどが混じっていたが, ミジンコウキクサが一番多い。大きな草ではフトイ, ハンゲショウ, ショウブ, ガマなどがあつた。

東和町内入の天然記念物バクチノキ近くの約80m×約80mの池ではコウキクサが特に多く, ヒメウキクサ, アオウキクサ, ウキクサなどが混じっていたが, ミジンコウキクサは見られなかった。東和町森の池, 約80m×約80mではヒシが3割, 水中ではオオトリゲモが多く, ホザキノフサモ, エビモ, イトモ, センニンモ, ホッソモ, マツモ, ウキクサ類(ミジンコウキクサはなかった)などであつた。シャジクモ類も採集されたが未同定で栽培している。大形水草はカンガレイ, ナギ, ガマ, コガマなどであつた。